

# あやせ目尻川 歴史さんぽ



綾瀬市教育委員会

## あやせ目久尻川歴史さんぽ

はじめに「あやせ目久尻川歴史さんぽ」は、令和2年3月に策定した「あやせ目久尻川歴史文化ゾーン構想」推進の一環として、令和2年4月に吉岡の神崎から小園の小園橋までの目久尻川サイクリングロードを歩いて、目久尻川流域の文化財や自然を感じたままにまとめました。

今後も内容を充実しながら、目久尻川流域の歴史文化をわかりやすくお知らせいたします。

### あやせ目久尻川歴史文化ゾーン構想とは

小園・早川・吉岡の約5kmを流れる目久尻川流域は、旧石器時代から現在に至る約4万年の人々の生活の痕跡が凝縮されているとともに、日本の原風景を思い起こさせる景観が広がる地域です。この目久尻川流域の歴史文化を一体的に活用するため、「あやせ目久尻川歴史文化ゾーン構想」を策定しました。

構想の計画期間は令和2年度から11年度の10年間です。

主なエリアは目久尻川流域の小園・早川・綾西・吉岡地区とし、郷土愛の醸成と地域住民が誇ることができる郷土づくりを行い、市内外からの来訪者による回遊を図るものです。

今後、この構想により目久尻川流域に広がる歴史文化資源を活用した、持続可能な地域活性化と交流促進につなげていくための取り組みを行ってまいります。

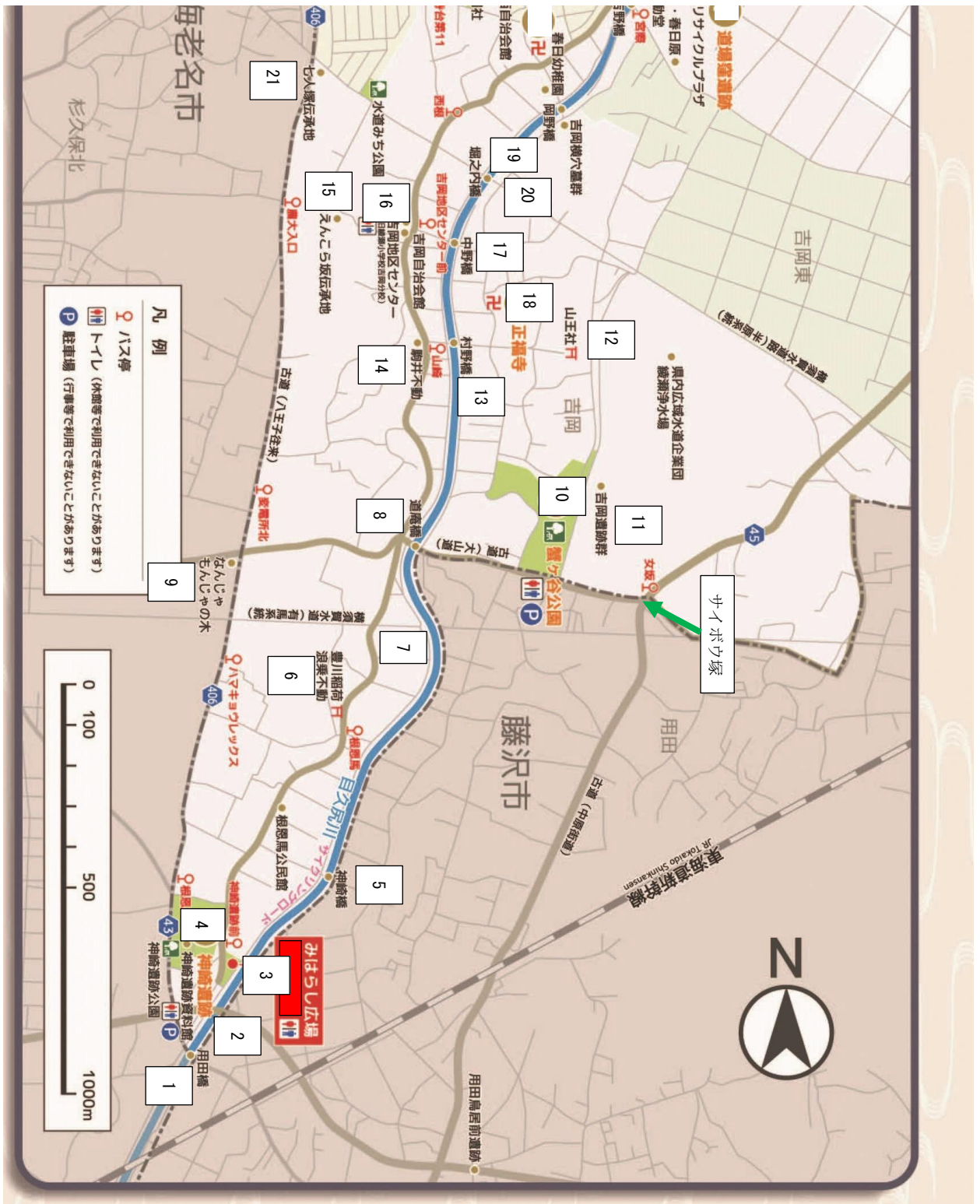
### 目久尻川は

相模原市南区相武台団地付近を水源とし、寒川町で相模川に注ぐ相模川水系の全長19.2kmの一級河川です。その内、綾瀬市は約5kmです。

この川の名の由来はいくつかの説があり、この川が座間市栗原にあった寒川神社の御厨（みくりや）のあたりから流れてくるために下流で「御厨尻川」と呼び、それが転じて「目久尻川」となったというものや昔この川に河童が住み着いて悪さをしていたため、地元の人々はこの河童を捕らえて目を穿り（くじり＝抉り）取ってしまった、という出来事から、この川は「目穿川」と呼ばれるようになり、それが転じて「目久尻川」となったという説などがあります。

綾瀬市小園の小園橋付近に、カッパ像があります。

【目久尻川流域マップ】





## 【用田橋1】及び【用田大橋2】付近

目久尻川の川幅は広く流れは穏やかで、鯉がゆったりと泳いでいます。

この辺りの標高は14mで綾瀬市最低地点です。ちなみに最高地点は大上3丁目企業庁水道局大塚配水池の81.7mです。

用田橋を境に、南は藤沢市用田、西は海老名市本郷になります。

用田橋1 サイクリングロード北方面



用田橋より北方面



用田橋付近道路案内標識



用田大橋2 用田大橋北方面



用田橋から約100m行くと、【みはらし広場3】があります。この広場は、「あやせ目久尻川歴史文化ゾーン」の南の拠点として、令和2年4月に整備しました。

トイレ、ベンチ等の休憩施設やあやせ目久尻川歴史文化ゾーンの案内板が設置されており、国指定史跡神崎遺跡への入口になります。

みはらし広場3 みはらし広場入口



みはらし広場



あやせ目久尻川歴史文化ゾーン案内板



みはらし広場から神崎遺跡公園方面



【神崎遺跡<sup>4</sup>】は、今から1800年くらい前につくられた弥生時代のムラであることがわかりました。「環濠（かんごう）」という溝に囲まれた集落で、現在までに18軒の住居跡が見つかっています。

神崎遺跡で発見された土器の95%以上が、東海地方の土器とそっくりだった点と住居も東海地方でよくつくられていた形でした。そのようなことなどから神崎遺跡は200km以上離れた東海地方から神崎の地に移住してきた人が作ったムラと考えられます。このように人々の移住の痕跡が確認できること、また、集落全体がほぼ完全な形が残っていることから、平成23（2011）年に国史跡に指定されました。

神崎遺跡<sup>4</sup> 神崎遺跡資料館



神崎遺跡公園



神崎遺跡案内板

ここから、東海道新幹線の16両編成（約400m）が一望できます。

右写真はドクターイエローが走っています。新幹線のお医者さんとよばれています。また、目撃すると「しあわせになれる」という都市伝説があります。

竪穴住居（復元）



みはらし広場から約400m行くと【神崎橋5】があります。対岸の藤沢市側には「川の駅」があり、「こいのぼり」や「お祭り」など季節ごとに行事を行っています。

神崎橋5 神崎橋



神崎橋と川の駅



神崎橋から約300m行くと左側に【根恩馬公園6】があり、公園内には「豊川稲荷」と「浪乗不動」があります。

豊川稲荷は、根恩馬の鎮守となっており、根恩馬で祀る稲荷様となっています。鎮座時は不明です。

浪乗不動は、「早川地蔵に吉岡不動」ということわざがあり、吉岡は不動信仰の篤い地区であり、浪乗不動もその一つです。

浪乗不動は、根恩馬地区の雨乞いとして、豊川稲荷神社の境内にある浪乗不動を棒の上にくくりつけ、皆で担いで一番近い川の堰に放り込み、雨が降るように祈願しながら水をかけたということですが現在は行われていません。

根恩馬公園6 根恩馬公園入口



根恩馬公園



浪乗不動説明板



左：豊川稲荷、右：浪乗不動



左：豊川稲荷



右：浪乗不動

サイクリングロードの根恩馬公園入口から約300m行くと、【横須賀水道有馬系統7】があります。この水道は、海老名市から横須賀市までの水道管で、昭和10年以降、富国強兵の国策により軍備拡張が叫ばれ、横須賀海軍工廠の拡張、軍港整備によって水がさらに必要となり、昭和14年に着工し、昭和20年に完成しました。昭和29年に横須賀市に移管されました。

横須賀水道有馬系統7 横須賀水道有馬系統





横須賀水道有馬系統を約200m行くと【道庵橋8】があります。

この道庵橋は、徳川幕府3代将軍徳川家光に仕えた典薬医半井驢庵の屋敷が「有馬のはるにれ9」（海老名市本郷）の近くにあり、驢庵が通ったことにより名付けられた橋で、「ろあん橋」がいつの間にか「どうあん」になまって伝えられたといわれています。

昭和10年に完成した道庵橋のコンクリート橋脚（矢印）の一部が残っています。

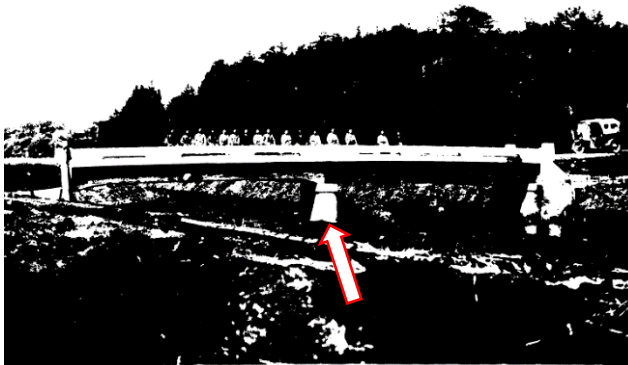
### 道庵橋8 道庵橋



### 道庵橋説明板



昭和10年に完成した前「道庵橋」



半井驢庵の屋敷があったといわれる「有馬のはるにれ」はるにれは大変珍しい木であったため、木の名前がわからず「なんじゃもんじゃ」の木と呼ばれるようになりました。



道庵橋から女坂（古道（中原街道(ヒストリー-1)））までのこの道路は、古道（大山道）です。女坂にサイボウ塚があり、綾瀬の民話の「こまげたおせん(ヒストリー-2)」になっています。



道庵橋から女坂方向

道庵橋から女坂方面に約300m行くと左側に【蟹ヶ谷公園10】があります。この公園は、極力現況の地形を生かした公園となっており、低地部の湿生園では、吉岡地区から湧き出る湧水を水源として利用し、カキツバタやハナショウブなど約19,000株があり、カワセミやシロサギなどの野鳥が訪れ、見晴らし台からは富士山や丹沢、湘南平などが一望できます。

蟹ヶ谷公園10 蟹ヶ谷公園



しろさぎ (湿生園)



かわせみ (湿生園)

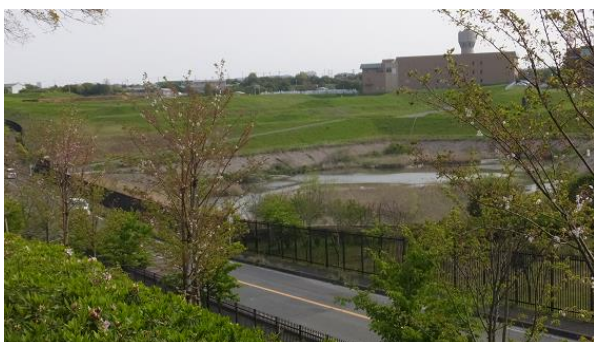


見晴らし台 (富士山などが一望できます)



蟹ヶ谷公園の東側には、【神奈川県内広域水道企業団綾瀬浄水場11】があります。ここは、浄水場建設に伴い発掘された、旧石器時代から近代までの遺跡(吉岡遺跡群)(ヒストリー3)で、県内最古である約4万年前の石器や、約2km離れた藤沢市用田鳥居前遺跡の石器と接合した約2万3千年前の石器(県指定)が出土しました。

綾瀬浄水場11 吉岡遺跡群



(調査時)



蟹ヶ谷公園湿生園から北方面に300m行くと【山王社12】があります。祭神は大山咋神（おおやまくいのかみ）で、創建は不祥ですが寛文13（1673）年の再建の棟札があります。境内には市内で最も古い文政8（1825）年銘の不動尊像があります。

大山咋神は、安産・子育て・縁結びの神といわれています。

【山王社12】 山王社説明板



山王社参道



山王社

【村野橋13】を渡ると【駒井不動14】があります。駒井不動は、安政5（1858）年に三軒庭・駒井庭の講中が勧請した大山不動です。毎年8月には不動尊祭りが行われます。

吉野橋、岡野橋、村野橋の橋の名称は、吉・岡・村に野橋をつけています。

【村野橋13】 村野橋



村野橋から早川方面



【駒井不動14】 駒井不動説明板



駒井不動



駒井不動から北方面に約200mで【「えんこら坂」伝承地15】(ヒストリー-4)入口があります。杖をついて「えんこらえんこら」とやっとながったことから「えんこら」坂と言われています。

【「えんこら坂」伝承地15】 入口



えんこら坂伝承地付近



えんこら坂入口の北側にある【吉岡地区センター16】は、今は公民館として使用しておりますが、綾西小学校が開校するまでの昭和45（1970）年3月まで、綾瀬小学校吉岡分校として使用していました。現在も当時の校舎と門が残されています。

【吉岡地区センター16】

吉岡地区センター



吉岡地区センター



分校当時の面影を残す門



吉岡地区センターから目久尻川の【中野橋17】を渡り南方面に【正福寺18】があります。正福寺は、浄土宗のお寺で、本尊は阿弥陀如来像です。小田原北条氏に仕えていた加藤伝太郎弘信が開基です。境内には法然上人若き日の旅立ち像があります。

【中野橋17】 中野橋



【正福寺18】 正福寺説明板



正福寺参道



法然上人若き日の旅立ち像



正福寺



北方面に向かい【堀之内橋19】の東西の道路は、【横須賀水道半原系統20】です。明治38（1904）年の日清戦争以降、横須賀は軍港施設の拡充・強化によってさらに用水不足となって、新たな水源の確保が求められ、明治45（1912）年に愛川町半原から横須賀市逸見町まで約5.3kmの工事を着手し、大正10（1921）年に完成しました。大正12（1923）年9月に発生した関東大地震の際には、各所で導水管の破損・継ぎ手部分の外れなど大きな被害を受け、震災直後に綾瀬市でも地域の人により大々的な復旧工事が行われました。

（現在は、使用されておられません。）

【堀之内橋19】【横須賀水道半原系統20】

半原方面



横須賀方面



七人塚伝承地付近から横須賀方面



震災直後の堀之内橋の復旧工事の様子  
(地域の人が総出で行ったそうです。)

横須賀水道路西（半原）方面にあがると【七人塚伝承地21】（ヒストリー4）があります。昔、杉を切って箸を作っていた職人が、杉に困って神明社の御神木を切ったため、同族七人が処刑された塚があったと言われています。

七人塚伝承地21 七人塚伝承地付近



堀之内橋から約200mの岡野橋を左折すると【済運寺22】があります。臨済宗のお寺で、渋谷庄司陸奥守三良が天治2（1125）年に観音堂を吉岡山済運寺に改め、菩提所にしたと言われています。

徳川家康が大坂夏の陣（慶長20（1615）年）と同じ年（元和元（1615）年）、春日局に3000石の化粧料のうち、吉岡村を所領として与えられたと言われ

ています。

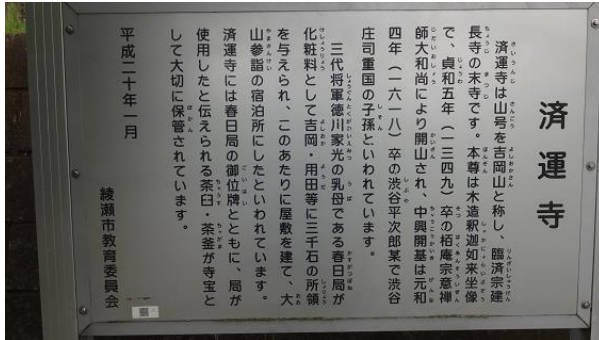
濟運寺は春日局の館跡と伝えられ、局の位牌と局が使ったといわれる茶臼・茶釜があります。

春日局は、朝廷から名称をもらったもので、本名は斎藤福といい、父は明智光秀の重臣だった斎藤利三で、小早川秀秋の家臣稲葉正成の妻になりましたが、離婚して竹千代（3代将軍徳川家光）の乳母に立候補して任命されました。

## 濟運寺 2 2

### 濟運寺説明板

### 濟運寺



春日局が使ったといわれる茶臼・茶釜

濟運寺の北側には、【神明社 2 3】があり元和2（1616）年に春日局により勧請されたと伝えられており、祭神は天照大神（あまてらすおおみかみ）・豊受大神（とようけおおかみ）です。

また、境内社には、琴平神社、弁財天社があります。

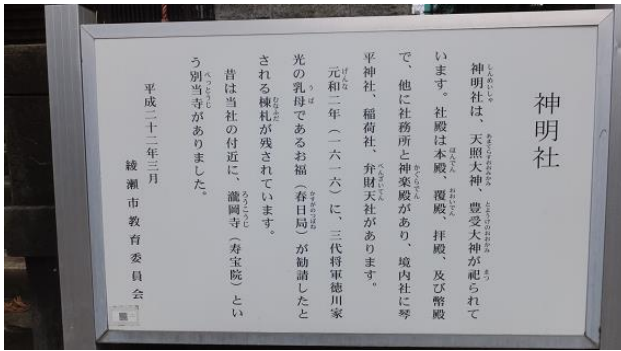
天照大神とは、日本の神話に登場する神様です。祭神の代表的な神社は伊勢神宮です。勝負運や仕事運、合格、出世などのご利益があるといわれています。

豊受大神とは、穀物と食物の五穀の神様です。



神明社 23

神明社説明板



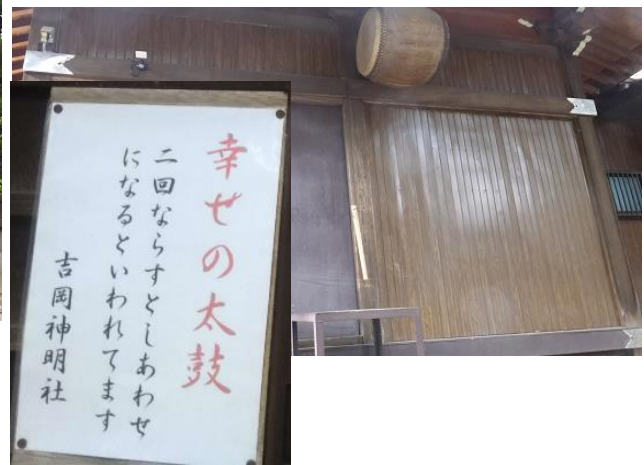
神明社



神明社



2回ならずとしあわせになるといわれている「幸せの太鼓」



【吉野橋24】から東方向（右）に約400mを左折すると【市リサイクルプラザ25】があります。ここは、道場窪遺跡で、縄文時代中期中葉から後葉の竪穴住居跡が28軒見つかっています。住居跡からは市内最大の大型土器が見つかっています。なお、現在、リサイクルプラザに、土器等の展示はしておりません。

【吉野橋24】



【市リサイクルプラザ25】

道場窪遺跡（市内最大の土器）



吉野橋から約100mで【せせらぎ広場26】があります。この広場は、雨水調整地の機能を有した広場で、桜・ハナモモなどがあります。

せせらぎ広場26 南入口



せせらぎ広場の途中から吉岡地区から早川地区に入ります。

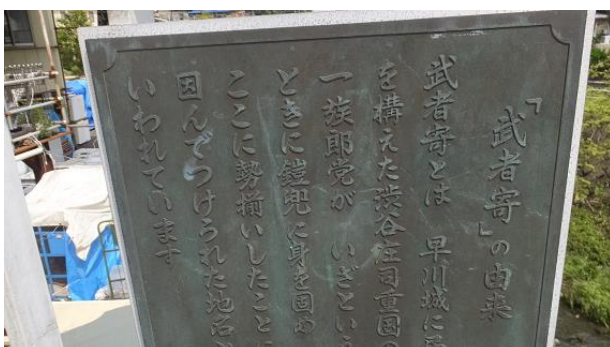
その北側が【新武者寄橋27】になります。この橋は、北側にある【武者寄橋28】の新橋で、かながわの橋100選に選ばれています。

武者寄とは、早川城に兵を構えた渋谷庄重国の一族郎党が、いざというときに鎧兜に身を固め、ここに勢揃いしたことに因んでつけられた地名と言われています。

新武者寄橋27 新武者寄橋から市役所方面 新武者寄橋標示板



新武者寄橋説明板



かながわの橋100選

